

# 令和7年度みえ介護生産性向上支援センターの 事業実施状況

令和8年2月27日

**みえ介護生産性向上支援センター運営事業共同体**

公益財団法人介護労働安定センター三重支部

一般社団法人三重県介護福祉士会

# みえ介護生産性向上支援センターの連携体制

## 三重県介護現場革新会議

### 委員

- 老人福祉施設協会 •老人保健施設協会 •医師会
- 地域密着型サービス協議会 •デイサービスセンター協議会
- 訪問看護ステーション協議会 •介護支援専門員協会
- 県社会福祉協議会 •産業支援センターよろず支援拠点
- 三重労働局 •津市

### 会議主催者

- 三重県医療保健部  
長寿介護課

### みえ介護生産性向上支援センター受託者

#### ■取組内容

- 地域の課題の共有や各機関の取組共有
- 生産性向上の取組方針検討  
(センターの活用も含め、周知啓発・モデル事業所の育成、  
モデルの横展開、各機関の連携、効果の把握等)

情報提供  
事業の協力

協議体の議論も踏まえ事業化  
事業の委託 (地域医療介護総合確保基金の活用)

制度改正・基金予算  
他都道府県の取組共有

## みえ介護生産性向上支援センター

### <主要な取組>

- a.相談受付 b.介護ロボット・ICTの展示 c.試用貸出 d.研修会の実施
- e.伴走支援等 f.生産性向上の関連情報の収集・提供 g.事業の周知
- h.ネットワークの構築

### <その他の取組>

- 介護ロボット・ICT導入等の支援事業の運営事務
- 都道府県版介護現場革新会議の運営支援

## 厚生労働省

### 介護ロボットプラットフォーム事業 (中央管理支援の取組)

専門家の育成  
各窓口情報共有

制度改正、報酬改定等

相談等

事業の実施

モデル事業所等として協力

## 介護サービス事業所

# みえ介護生産性向上支援センターの事業実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
広報	チラシ・ポスター・WEBサイト・SNS・関連団体・事業所への訪問											
介護現場革新会議				第1回 7月8日							第2回 2月27日	
相談窓口/個別支援	随時											
伴走支援		募集	選定	第1回 7月24日	第2回（9月）～第4回（1月）						支援結果報告書	
展示会/研修会						第1回 9月2日			第2回 12月19日			
セミナー（課題別）				第1回 7月14日			第2回 10月15日			第3回 1月19日		
見学会					富田浜福社会 7月25日		あけあい会 10月7日					
ICT機器貸出	随時											

# みえ介護生産性向上支援センターの相談窓口①

介護現場における生産性向上の取組を推進するため、介護サービス事業所等からの業務改善等に関する各種相談対応や介護ロボット・ICT機器導入等の支援を行う総合相談窓口「みえ介護生産性向上支援センター」を運営（当初開設は、令和6年7月1日）

## 実施体制

- (1) 開設日  
令和7年4月1日（火）
- (2) 開設場所  
津市羽所町5-1-3 サンヒルズ2階 （公財）介護労働安定センター三重支部内
- (3) 運営方法  
みえ介護生産性向上支援センター運営事業共同体  
（公益財団法人介護労働安定センター三重支部/一般社団法人三重県介護福祉士会）
- (4) 支援対象  
三重県内の介護サービス事業所等
- (5) 目的
  - ・介護現場の生産性向上のための総合的な相談窓口。
  - ・問い合わせは電話（059-271-5700）、またはWEBサイト内の相談受付フォームが利用できる。
  - ・電話は平日9～17時の対応、相談受付フォームは24時間（※送信のみ）可能。
  - ・2回目以降は、電話以外にも、メールやオンライン面談、訪問等、効果的な方法でも実施。
  - ・専門家相談は90～120分。専門家派遣の前に事務局職員により事業所ニーズの把握など必要な情報収集を実施。

## みえ介護生産性向上支援センターの相談窓口②

- 介護事業所からセンターへ寄せられた相談は、68件。（令和8年1月12日時点）
- 事業所の抱えている課題の把握や情報提供のための介護事業所訪問及び市町・関係機関への事業協力依頼・情報提供のための訪問を実施。（156件）
- 相談内容は、介護ロボット導入（補助金の相談含む）やセンター事業に関する問い合わせが多い。
- サービス種別では、特養20件、老健6件など、施設系サービスが全体の75%を占める。

相談件数		内訳
内訳	相談内容別	センター事業内容（23件）、取組全般（13件）、介護ロボット補助金（12件）、伴走支援（5件）、職員研修（5件）、展示会・研修会（4件）、機材貸出（3件）、体制加算（3件）
	相談事業所のサービス別	特養（23件）、老健（5件）、有料・サ高住（6件）、通所（16件）
	相談事業所の地域別	北勢（18件）、中勢（26件）、南勢（14件）、伊賀（8件）、東紀州（2件）
うち専門家派遣（38件）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産性向上に関する課題を解決を図るため、個別相談支援を実施（14件）</li> <li>・補助金関連支援（21件）</li> <li>・職員意識の課題解決のため、セミナー実施支援を実施（3件）</li> </ul>

\* 電話・メール含む

### 成果と課題

- 補助金申請の要件として「みえ介護生産性向上支援センターへ相談を行うこと」関係の問い合わせが多く（34%）、支援サービスの内容説明を行い、その内容に応じ専門家派遣に繋げるケースもあった。
- サービス種別では、特養・通所サービス・老健が主で、補助金申請に合わせた問い合わせが65%を占めた。
- 生産性向上に関する課題は、人手不足に起因して生産性向上に取り組む必要性を理解しているものの、介護テクノロジーの活用までは動き出せず、現状維持の事業運営（課題把握ができていない）を行う事業所もあった。研修会実施等により、きめ細かな対応が必要と考えられる。

# みえ介護生産性向上支援センターの相談支援事例

## 相談事例①

### 特別養護老人ホーム(鈴鹿市) 10月専門家同行訪問

- 相談内容: 介護現場で働く看護師の働き方の向上について相談
- 状況確認: ①看護師からインカムの導入希望がある。②どのインカムが適切なのか、③導入すると本当に働きやすくなるのか、疑問を感じている。
- アドバイス内容: 無線型とスマホ型の2つを説明し、今後を見据えてスマホ側を提案。  
従来の記録ソフトを使用し、インカムアプリのデモを実施した上で、効率の良さを体感していただいた。

## 相談事例②

### 通所サービス(四日市市) 1月専門家同行訪問

- 相談内容: ICT機器の導入を予定しているが、導入において注意すべき点や委員会の立ち上げに関して、運用方法などのアドバイスが欲しい。
- 状況確認: ①経営者側の判断で取り入れたICT機器への拒否反応が現場で出ている。②職員が自分の慣れた方法で進めてしまう。③経営者側の個人的な指示として受け取られてしまい、組織的な定着が進んでいない。
- アドバイス内容: ①②理念の紐づけとキックオフの実施  
③生産性向上委員会の設置とスモールステップでの改善活動の実施

## 考察

- 特養などの施設系の場合、人手不足と生産性向上は必須のテーマであるため、現場の要望から〇〇機器を導入するため専門家を通じた助言が欲しいという相談が多い。
- 経営者側の判断のみで生産性向上の取組を進めてしまうと、現場との意見対立が起こり、前に進まなくなることがある。生産性向上委員会等の意見を優先するなど、経営者側の現場理解の向上が求められる。

派遣先	株式会社サポート ヘルパーライフ西条		地区	北勢地区 (鈴鹿市)
サービス別	訪問介護	申込日	7月29日 (火)	
支援実施日	1回目：8月4月 (月) 15時～17時 2回目：11月11日 (火) 13時30分～15時30分			
申込経緯	7月14日 (月) 実施の訪問介護事業所向け「生産性向上ガイドライン」セミナーにWeb参加した際に、取り組む必要性を強く感じ、専門家による無料相談に申し込まれた。			
申込時の課題	人材不足が深刻であり求人活動よりも既存職員の定着を優先すべきと考えているが、職場改善活動が急務であるにも関わらず、どこから手を付ければ良いのか分からない。			
支援内容 (1回目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生産性向上ガイドラインの再確認とともに進め方を確認</li> <li>・ 「生産性向上委員会」を立ち上げ、全社的な取り組みとしてスタート</li> <li>・ 因果関係分析の実施方法を説明後、9月中に全職員対象に気づきシートを配布し、現場課題の収集を次回までに行うように指導</li> <li>・ 8月中に全職員に対し、経営者からの「働きやすい職場づくり」キックオフ宣言を実施するように指導</li> </ul>			
支援内容 (2回目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題の見える化の分析を深める作業を、委員会メンバーと共に進める。</li> <li>・ 収集した気づきシートと因果関係分析結果をもとに、分析深堀を実施し、取り組む課題を決定。</li> </ul>			
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社責とヘルパーの情報交換時の項目を整理し、情報交換を密にする仕組みを構築。</li> <li>・ LINE WORKSの使い方勉強会を開催し、確認すべきところを統一して情報伝達を強化。</li> </ul>			

# 生産性向上の取組に関する研修会

第1回研修会



第2回研修会



内容	第1回	第2回
開催日・会場	9月2日（火） 松阪商工会議所（松阪市）	12月19日（金） 柿安シティホール（桑名市）
テーマ・講師	第1部 生産性向上に資するガイドライン 株式会社NTTデータ経営研究所 マネージャー 片山 眞一郎 氏 第2部 介護現場における業務改善の進め方 アズメド株式会社 代表取締役 西 直哉 氏 第3部 介護テクノロジー導入支援補助金の説明 三重県医療保健部長寿介護課	第1部 生産性向上に資するガイドライン 第2部 介護現場における業務改善の進め方 ～1部・2部～ 株式会社NTTデータ経営研究所 マネージャー 片山 眞一郎 氏 第3部 生産性向上に係る県・センターの業務 三重県医療保健部長寿介護課
参加人数	101人（会場：69人、Web：32人）	81人（会場：25人、Web：56人）
参加者属性 （職位）	45人（施設長以上）、19人（現場リーダークラス）、8人（企業、個人等）	21人（施設長以上）、19人（現場リーダークラス）、6人（企業、病院、個人等）
事業所属性 （サービス別）	施設系51人、通所系14人、訪問系18人	施設系49人、通所系6人、訪問系7人
参加者属性 （地域別）	北勢20人、中勢43人、南勢25人、伊賀8人	北勢36人、中勢28人、南勢7人、伊賀8人

## 成果と課題

- 令和6年度の四日市市及び津市の開催に比べ、令和7年度は南北に開催地を広げたことにより、南勢・北勢地域の参加者が増加した。
- YouTubeによる視聴性（見やすさ、アクセスのしやすさ）が優れていることから、内容の再確認や遠方の方への周知・意識向上に効果的だった。

# 介護ロボット・ICT機器の展示会

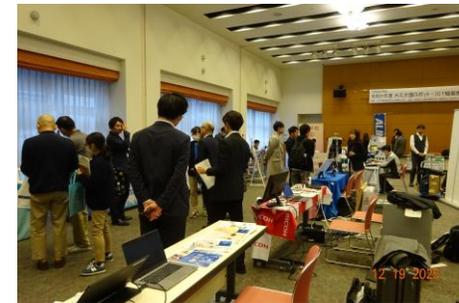
- 9月に松阪市、12月に桑名市で開催
- 参加者の効率及び集客を高めるため、研修会・展示会を同時開催

内容	第1回	第2回
開催日時	9月2日（火）12時～16時	12月19日（金）11時～16時
会場	松阪商工会議所 （松阪市）	くわなメディアライブ （桑名市）
参加人数	118人	102人
参加者 （サービス別）	施設系66人、訪問系39人、通所系33人	施設系51人、通所系8人、訪問系7人
参加者 （地域別）	松阪市37人、津市18人、伊勢市9人、 尾鷲市8人、四日市市7人、玉城町7人他	桑名市19人、四日市市17人、津市13人、 いなべ市12人、伊勢市5人他
参加企業数	24社（32機器） （見守り機器9社、排泄支援4社、介護業務支援3社他）	27社（31機器） （見守り機器9社、介護業務支援4社、インカム2社、 移乗支援2社他）

第1回展示会



第2回展示会



## 成果と課題

- 施設系の職員が多く参加。現在導入している機器との比較や、次年度導入予定の機器の見学を目的とした参加者が多かった。
- 会場周辺地域からの来場比率が多く、県内各地域での開催が必要であると考えられる。
- 見守り機器への関心が高く、インカムの導入を検討している施設が多かった。生産性向上推進体制加算の取得を視野に向けてとみられる。
- 今後、機器の貸出相談を会場内でも実施することにより、介護事業所とメーカーを直接繋げるにより活用が進むと考えられる。

# 生産性向上の取組に関する事業所見学会

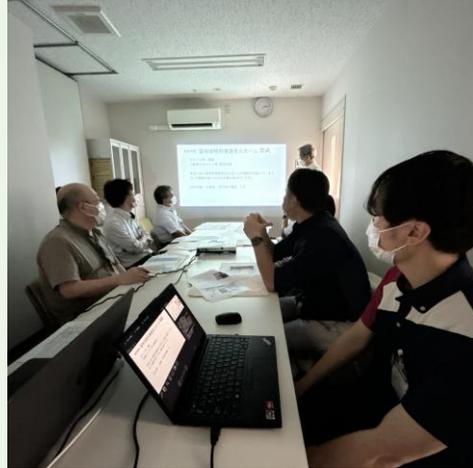
## 富田浜福祉会

開催日：令和7年7月25日(金)

参加者：12名(定員10名)

内容：

- 介護テクノロジーの導入経緯
- 活用しているICT機器の良し悪し、選んだ理由(3社)
- 機器(見守り)の活用状況の現場見学
- 導入効果の説明  
居室内転倒件数60件▶43件  
(3年間での変化)



## あけあい会見学会

開催日：令和7年10月7日(火)

参加者：8名(定員10名)

内容：

- 施設紹介
- 介護ロボット・ICT機器、独自機器等の導入状況説明
- 独自機器の活用状況の現場見学
- 意見交換



## 成果と課題

- 《参加者属性》
  - ・20人のうち13人が代表者・施設長
  - ・20事業所のうち14事業所が、施設系(特養、老健)
- 《参加目的》
  - ・施設内での実際の機器の使用方法を参考にしたい。〈参加者の声〉
  - ・導入予定機器の使い勝手(活用)や良し悪しを確認したい。〈参加者の声〉
- 《課題》
  - ・実際の活用状況について、現場を見学(確認)したいという要望が多い。
  - ・補助金申請の前段階の実施が、情報収集としてはタイムリーな時期となる。

# 生産性向上の取組に関するセミナー

## 訪問介護事業所向け 生産性向上ガイドライン

開催日：令和7年7月14日(月)  
講師：三重県医療保健部長寿介護課  
アズメド株式会社  
代表 西 直哉 氏  
参加者：30名 (Zoom)  
属性：代表・施設長 23人  
訪問系22人、施設系8人  
内容：  
○訪問介護事業所における生産性向上  
ガイドライン解説  
○令和7年度訪問介護等サービス提供  
体制確保支援事業補助金について

## 生産性向上推進体制加算の取得

開催日：令和7年10月15日(水)  
講師：三重県医療保健部長寿介護課  
社会福祉法人鈴鹿福祉会  
ショートステイ鈴鹿グリーンホーム  
施設長 服部 昭博 氏  
参加者：72名 (Zoom)  
属性：施設長以上40人  
施設系66人  
内容：  
○生産性向上推進体制加算制度及び  
取得要件について  
○生産性向上推進体制加算 I 取得事業所  
の事例紹介

## ケアプランデータ連携システム導入

開催日：令和8年1月19日(月)  
講師：株式会社TRAPE  
代表取締役 鎌田 大啓 氏  
三重県医療保健部長寿介護課  
参加者：125名 (Zoom)  
属性：施設長以上 44人  
訪問系46人、通所系22人、  
施設系24人  
内容  
○ケアプランデータ連携システム  
導入の目的と意義  
○システム利用開始までの手順  
○意見交換

## 成果と課題

- ケアプランデータ連携システム研修のアンケート結果では、67%が導入意思を示しており、取組推進へ効果があった。
- 参加者は、代表者・施設長が多い。
- 引き続き、サービス種別の課題に応じたテーマを設定して、セミナーを開催していく必要がある。

# 介護ロボット・ICT機器の試用貸出①

## ◆介護ロボット・ICT機器の試用貸出の流れ

### 貸出申込

- 事業所は専用の介護ロボット・ICT機器試用貸出リストから貸出希望機器を選定し、貸出を申し込む。
  - ・貸出対象：県内に所在する介護サービス事業所等 報
  - ※原則、1事業所につき、1回の貸出（1種類の機器の貸出）
  - ・試用貸出機器は、公益財団法人テクノエイド協会の掲載機器、またはセンター展示会の出展企業機器とする。



### 試用貸出

- 下記の要件で試用貸出を実施する。
  - ・貸出期間 令和7年12月2日から令和8年2月27日まで 報
  - ※1事業所あたりの貸出期間は、2週間～1ヶ月程度
  - ・介護事業所の借用費用 無料
  - ・貸出企業への貸出1回あたりの謝金 30,000円以内（謝金支給対象：中小企業基本法における中小企業）



### 試用貸出後

- 貸出終了後に事業所に対して、介護ロボット・ICT機器の試用貸出に関するアンケートを実施。（集計中）
  - ・アンケートの結果から、試用貸出の効果や貸出後の導入の有無等の確認を行う。

# 介護ロボット・ICT機器の試用貸出②

## 貸出実績

19件 ※令和8年1月27日現在

重点分野名	貸出機器数	製品名	試用貸出元企業
移乗支援	8事業所	①ROBOHELPER SASUKE ②介護リフトつるべー ③移乗ですⅡ	マッスル株式会社 株式会社モリトー 株式会社あかね福祉
見守り・コミュニケーション	4事業所	①PALO ②LOVOT	株式会社知能システム 株式会社GROOVEX
入浴支援	3事業所	①ナノミストバス ②泡シャワー KINUAMI U	株式会社EINS 株式会社LIXIL
排泄支援	2事業所	①NECサニタリー利用記録 ②排泄センサー (Helppad2) ヘルプパッド2	パラマウントベッド株式会社 株式会社aba
介護業務支援	2事業所	①インカム ②アンシェル	ウェッジ株式会社 積水化学工業株式会社

## 成果と課題

- 実績：貸出実績19件のうち特別養護老人ホームが8件を占めており、施設系の貸出実績が多い。
- 目的：導入を目的とした試用貸出が多くあった。理由として「職員の身体的負担軽減を図りたい」という理由が多い。
- 貸出機器：移乗支援に関する機器のニーズが多く、次年度の機器導入にあたっての検討材料となっている。
- 課題：今後の取組として、展示会会場において貸出手続きの説明を行うなど、試用できる機会を増やしていく。

## 事業概要

### (1) 内容

生産性向上の取組を実施しようとする介護サービス事業所等に対し、介護現場の生産性向上に向けた業務内容の見直しやテクノロジーの導入等に対し専門家を個別に派遣し、相談・助言等の支援を実施

### (2) 支援回数等

1事業所あたり4回、1回あたり2時間の専門家派遣を実施

### (3) モデル事業所の選定

支援対象：三重県内に所在する介護保険法に基づく介護事業所

募集期間：令和7年5月1日(木)～令和7年5月30日(金)

支援費用：無料

### (4) 選定事業所

下記の8事業所をモデル事業所として選定

- |                                   |                |
|-----------------------------------|----------------|
| ①社会福祉法人英水会 日永英水苑在宅介護サービスセンター      | (通所介護)         |
| ②富士ライフケアネット株式会社 玉垣あんしん館通所介護事業所    | (通所介護)         |
| ③地域ケア株式会社 グループホーム・小規模多機能ホームとのむら   | (認知症対応型共同生活介護) |
| ④有限会社介護センター田中 グループホーム渚園           | (認知症対応型共同生活介護) |
| ⑤医療法人全心会 特定施設ひかりの橋                | (特定施設入居者生活介護)  |
| ⑥社会福祉法人洗心福祉会 ふたみ介護老人保健施設シルバーケア豊壽園 | (介護老人保健施設)     |
| ⑦社会福祉法人あやまユートピア 特別養護老人ホームむくもり園    | (介護老人福祉施設)     |
| ⑧社会福祉法人東海宏和福祉会 特別養護老人ホーム名張もみじ山荘   | (介護老人福祉施設)     |

# 専門家による伴走支援モデル事業②

## 伴走支援の進め方（イメージ）

支援コンサルタント：アズメド(株)西 直哉 氏

伴走支援	全体説明会（第1回）	第2回	第3回	第4回（最終）
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●モデル事業所紹介</li> <li>●伴走支援の進め方（実施期間とPDCA）</li> <li>●プロジェクトチームの結成</li> <li>●講師・担当者の紹介</li> <li>●求められる最終目標について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現状確認</li> <li>●ヒアリングと現場確認</li> <li>●支援内容(PDCA)の検討</li> <li>●KPI検討</li> <li>●ありたい姿の設定</li> <li>●キックオフ宣言、アンケート実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●タスク進捗状況確認</li> <li>●結果共有</li> <li>●発生した問題への対応</li> <li>●KPIの達成状況確認と方向性確認</li> <li>●振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●発生した問題への対応結果確認</li> <li>●KPIの達成状況確認（最終）</li> <li>●伴走支援後の取組（助言）</li> <li>●モデル事業所としての役割</li> </ul>
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●モデル事業所として求められていることの理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業所の現状理解</li> <li>●参画メンバーの意識統一</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業主と全職員への共有</li> <li>●プロジェクト進行状況確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ありたい姿（目標）の達成（KPIの達成度）</li> </ul>
事業所対応者	<ul style="list-style-type: none"> <li>●8事業所 責任者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●責任者+プロジェクトメンバー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●責任者+プロジェクトメンバ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●責任者+プロジェクトメンバー</li> </ul>

※全体説明会（第1回）は、伴走支援共通の課題や今後取り組むべきテーマを内容として実施。

## 日永英水苑在宅介護支援サービスセンター



### 基本情報

- ・社会福祉法人英水会
- ・日永英水苑在宅介護サービスセンター
- ・三重県四日市市大字日永5530番地23
- ・利用者数：45名 職員数：22名

### 支援内容

【現状の課題】記録関連で効果的な運用ができていない（数か月後に介護記録システムを導入予定）

【課題解決の取組】記録関連の課題の見える化及び打ち手の実施

【1回目】（共通）生産性向上の取組やプロジェクト推進に関する研修を実施し、個別支援に向けて取り組むべきテーマ（キックオフ等）を伝える。

【2回目】記録関連の課題の見える化を実施、介護記録ソフト導入を見据えた課題を選定、WBS・ガントチャート作成  
課題①ヒヤリハット様式を導入予定の介護ソフトと同様の内容とし、オペレーションを変更  
課題②転記の多いバイタル記録の手順を見える化し、工数を減らすことで、ミスと負担を減らす

【3回目】KPI設定、進捗確認、達成内容が見える化して達成感を得る。新たな課題への打ち手の検討 等

【最終】KPI確認と評価、課題②の打ち手の再考、今後の介護ソフト導入へのタスクとスケジュールを作成して支援を終了

### 成果と課題

- ・ヒヤリハット意識が低く年間2件→改善活動で意識変化が起こり直近2カ月で9件へ。意識変革とリスク管理体制の強化が実現。
- ・転記廃止のオペレーションの試行錯誤により、1日あたり約15分の業務時間短縮。
- ・職員から「業務改善のために皆で意見を出し合えるのが良かった」という声上がり、まさに心理的安全性が醸成されたチームへと進化している。この雰囲気が継続されるかが今後のキーポイントになる。

## 玉垣あんしん館 通所介護事業所

### 基本情報

- ・富士ライフケアネット株式会社
- ・玉垣あんしん館 通所介護事業所
- ・三重県鈴鹿市南玉垣町5520
- ・利用者数：45名 職員数：20名

報



### 支援内容

【現状の課題】朝の時間の介護職員への業務負担が大きい

【課題解決の取組】特に送迎利用者の到着時間帯（9時20分～9時40分）の負担軽減のための打ち手の検討及び実施

【1回目】（共通）生産性向上の取組やプロジェクト推進に関する研修を実施し、個別支援に向けて取り組むべきテーマ（キックオフ等）を伝える。

【2回目】送迎利用者の到着時間帯の業務の見える化を実施。打ち手を検討し、実施するためのWBS・ガントチャート作成。  
打ち手①送迎・受入業務の役割分担（運転手・相談員の活用）を再構築  
打ち手②ICT導入支援（バイタル記録のBluetooth自動連携、インカム利用、生成AIアプリ等の検討）

【3回目】KPI設定、進捗確認、達成内容が見える化し、達成感を得る。新たな課題への打ち手の検討 等

【最終】KPI確認と評価、今後のタスクとスケジュール（道標）を作成し、支援を終了。

報

### 成果と課題

- ・送迎利用者到着の時間帯における介護職員の負担が軽減された（インタビューにより確認、他スタッフへの負担は増加していないことも確認）。昨年度に実施した個別相談により助言した「課題の見える化」を進めていることにより、課題も明確であり、伴走支援が他の事業所より深い支援に繋がった。
- ・現場スタッフが意見を出して、課題解決に取り組む文化が形成されつつあるので、この流れを断ち切らないことが重要。

## グループホーム・小規模多機能ホームとのむら

### 基本情報

- ・ 地域ケア株式会社
- ・ グループホーム・小規模多機能ホームとのむら
- ・ 三重県津市殿村1553番地
- ・ 利用者数：42名 職員数：34名

報



### 支援内容

【現状の課題】 特定の時間や人に業務負担の偏りが大きい。

【課題解決の取組】 夕方時間の業務を見える化し、打ち手の検討及び実施。

【1回目】（共通）生産性向上の取組やプロジェクト推進に関する研修を実施し、個別支援に向けて取り組むべきテーマ（キックオフ等）を伝える。

【2回目】 夕方時間帯の業務の見える化（業務工数の把握）を行い、打ち手を検討。実施するWBS・ガントチャートを作成。

【3回目】 得られた業務工数から集中する時間や業務内容を特定。夕方の申し送り時間の変更や夜勤者との役割分担を明確化。KPIの設定。

【4回目】 KPI確認と評価。偏りの多い朝の時間帯の同手法の展開へのスケジュールを作成し、支援を終了。

報

### 成果と課題

- ・ 昨年度の個別相談による助言もあり、伴走支援に関係するメンバーの意識が高くなっていた。
- ・ 夜勤者の業務が不明確になっていた勤務開始から申し送り前の時間帯の業務が明確になり、日勤者への業務負担が減少。
- ・ 17:30～17:59の時間帯の工数指標が32%減少→最も集中する時間帯への業務の集中度が減少
- ・ 16:40～16:59の日勤者業務の工数指標が16%減少→日勤者への業務負担が減少
- ・ 16:50～16:59の夜勤者業務の工数指標が6%増加→夜勤者に仕事を割り当てられた

## グループホーム渚園

### 基本情報

- ・ 有限会社 介護センター田中
- ・ グループホーム渚園
- ・ 三重県津市柳山津興382-4
- ・ 利用者数：18名 職員数：16名

報



### 支援内容

【現状の課題】介護ソフトを導入したいが、どうしたら良いのか分からない

【課題解決の取組】相談支援事例を基にしたコンサルタントからの助言による課題の見える化を実施

【1回目】（共通）生産性向上の取組やプロジェクト推進に関する研修を実施し、個別支援に向けて取り組むべきテーマ（キックオフ等）を伝える。

【2回目】介護ソフト選定に関するアドバイスと現状把握、課題の見える化を提案

【3回目】課題の見える化の手法について説明。気づきシートの展開

【4回目】気づきシートの収集及び整理。次回の実施についての各所調整

【サポート支援】1月13日に因果関係図を作成し、今後の取組についての方向性を伝えて、支援を終了

報

### 成果と課題

- ・ 伴走支援を通じて、「まずは現場の課題を把握すべき」という基本に立ち返ることができた。
- ・ 「気づきシート」の収集は、目標の30枚を大幅に上回る80枚にのぼり、現場から課題を出せる雰囲気醸成されてきた。
- ・ フォローアップを含め「課題の見える化」を区切りのよい時点まで実施し、今後と方向性を伝えて支援を終了。

## 特定施設ひかりの橋

### 基本情報

- ・ 医療法人全心会
- ・ 特定施設ひかりの橋（伊勢メディケアセンターひかりの橋内）
- ・ 三重県伊勢市常盤2-4-35
- ・ 利用者数：80名 職員数：31名



### 支援内容

【現状の課題】 2人移乗が必要な利用者が多くなっている

【課題解決の取組】 2人移乗を減らすためリフト等の機器を導入する

【1回目】（共通）生産性向上の取組やプロジェクト推進に関する研修を実施し、個別支援に向けて取り組むべきテーマ（キックオフ等）を伝える。

【2回目】 ロボヘルパーSASUKEの導入へのプロジェクトフレームワークを実施。想定される懸念点の見える化を実施

【3回目】 ロボヘルパーSASUKEが一部環境に合わないため、代替機器（リフトSOEL）を提案、検証を進める。

【最終】 機器の比較検討についての体系的手法や、法人経営本部への稟議提案における生産性向上についての定量化手法を提示。今後の導入ステップについて整理し、支援を終了。

### 成果と課題

- ・ 当初検討していた機器（ロボヘルパーSASUKE）が環境に合わないことを早期に見極め、代替機器（SOEL）へピボットを提案。無駄な投資を防ぎ、実効性のある検証へと移行した。
- ・ プロジェクト推進や機器選定、法人本部稟議のための見える化の手法について基本的な方法を助言。
- ・ 支援を重ねるにつれ、メンバーが意見を出し合えるような雰囲気が出来ていき、心理的安全性が醸成されてきている。

## ふたみ介護老人保健施設 シルバーケア豊寿園

### 基本情報

- ・ 社会福祉法人洗心福祉会
- ・ ふたみ介護老人保健施設シルバーケア豊寿園
- ・ 三重県伊勢市二見町三津字池田855番地
- ・ 利用者数：100名 職員数：64名

報



### 支援内容

- 【現状の課題】 法人全体で生産性向上に向けた委員会を立ち上げるなど、生産性向上の取組は進んでいる事業所ではあるが、現状は、見守りシステムの設定がマニュアル化できていない。
- 【課題解決の取組】 見守りシステム（HitomeQ）の設定標準化
- 【1回目】 （共通）生産性向上の取組やプロジェクト推進に関する研修を実施し、個別支援に向けて取り組むべきテーマ（キックオフ等）を伝える。
- 【2回目】 最近導入した見守りシステム導入後の課題の見える化を実施。設定の最適化や属人化に課題。生産性向上推進体制加算Ⅰの要件を満たす課題が見えてきたので、加算取得のポイントを助言。
- 【3回目】 設定に悩む利用者限定し、その状態を言語化して評価基準を作成。
- 【最終】 設定のフローチャートを作成。通知設定を見直して不要な通知を減らす。定期巡視オペレーションの改善を進めることを確認し支援終了。

報

### 成果と課題

- ・ 見守りシステムの通知設定の最適化と定期巡視オペレーションの変更により、入居者1人あたり最大一晩8回の定期訪室（合計で800回）の定期訪室をほぼ「ゼロ」に削減できる見込みが立った。
- ・ 4回目の伴走支援時には、データの取得や法人への横展開を見据えた新プロジェクトを立ち上げるための見える化を実施。その際には介護リーダーのファシリテーション能力支援を含めたプロジェクト推進の「型」について助言することで、人材教育に繋げることができた。
- ・ モデル事業所の役割である取組事例を伝達できる人材の成長にも繋がった。※生産性向上に取り組むリーダーが在籍。

報

## 特別養護老人ホーム めくもり園

### 基本情報

- ・ 社会福祉法人あやまユートピア
- ・ 特別養護老人ホーム めくもり園
- ・ 三重県伊賀市馬場600番地
- ・ 利用者数：48名（特養） 職員数：25名



### 支援内容

- 【現状の課題】 介護ソフト外の記録関連書類（エクセルデータ等）の共有や転記に課題（※数か月後に介護ソフトの更新）
- 【課題解決の取組】 共有されずに独自に介護ソフト外で管理している記録関連書類を削減する
- 【1回目】（共通）生産性向上の取組やプロジェクト推進に関する研修を実施し、個別支援に向けて取り組むべきテーマ（キックオフ等）を伝える。
- 【2回目】 プロジェクト推進における「手法」を伝えるとともに、介護ソフト外で管理している記録関連書類の削減プロジェクト進行のためのWBS・ガントチャートを作成。
- 【3回目】 進捗確認。進捗の遅い事業所の課題をヒアリングし、打ち手を検討。KPIの設定。
- 【最終】 111種類の書類を14種類を廃止し、51種類をシステム化。成果を可視化することで、職員のモチベーション向上を図った。

### 成果と課題

- ・ 介護ソフト外で管理している記録関連書類（エクセルデータ等）を整理し、51種類を有効なものとしてシステム化できた。さらに担当者との協力により不要なものを判断する作業を進捗中。プロジェクト開始3ヶ月後に介護ソフト外の記録関連書類がどの程度削減できたかの達成状況を確認する。また、残業時間や労働時間調査もKPIとして使用する。
- ・ 厚生労働省「デジタル中核人材研修」への参加と合わせて、生産性向上に向けて取り組むリーダーが在籍。

## 特別養護老人ホーム 名張もみじ山荘

### 基本情報

- ・ 社会福祉法人東海宏和福祉会
- ・ 特別養護老人ホーム 名張もみじ山荘
- ・ 三重県名張市赤目町長坂日之谷250-3
- ・ 利用者数：80名（特養） 職員数：55名



### 支援内容

【現状の課題】 職員のICTリテラシーが高い職員が少なく、ICTへの抵抗感がある（※数か月後に介護ソフトを導入予定）

【課題解決の取組】 ICTリテラシー向上とDX人材の育成

【1回目】（共通）生産性向上の取組やプロジェクト推進に関する研修を実施し、個別支援に向けて取り組むべきテーマ（キックオフ等）を伝える。

【2回目】 ICTへの抵抗感を減らすため「PC基礎研修」を企画。一方でICTがフレンドリーな職員も複数存在するため、これら職員を研修講師やDX人材へと育成することを検討。WBS・ガントチャートを作成。

【3回目】 進捗確認。KPI設定。新たなる課題への打ち手の検討。

【最終】 プロジェクトメンバーに加えDX人材を入れたメンバーでの介護ソフト導入プロジェクトへの橋渡しを行い、支援終了。

### 成果と課題

- ・ デジタルが苦手な職員への抵抗感を払拭する「PC基礎研修」の内容をアンケート実施によりニーズを吸い上げながら作り上げ、DX人材（介護ソフト導入時も大きな力となる）の発掘と育成にもつなげた。
- ・ DX人材候補を2名発掘して介護ソフト導入をスムーズに行う仕組みを作り、12月からPC基礎研修2講座を担当して実施した。
- ・ 厚生労働省「デジタル中核人材研修」への参加者もあり、業務改善やDX推進のための組織づくりが動き出した。

### 1 K P I の定義

ワンストップ窓口における相談対応件数、研修受講者数、試用貸出から導入に至った割合等

### 2 K P I の設定・達成状況

No.	指標	単位	現状値	目標値	実績値
			令和6年度	令和7年度	令和7年度 ※令和8年1月末現在
1	みえ介護生産性向上支援センターへの相談対応件数	1年間	131件	150件	114件
2	介護ロボット・ICT機器展示会参加者数	2回	195人	200人	220人
3	介護現場の生産性向上に関する研修会参加者数	2回	102人	200人	182人
4	生産性向上に係る個別セミナー参加者数	3回	—	150人	227人
5	介護ロボット・ICT機器試用貸出件数	1年間	12件	30件	19件

### 3 K P I の達成のための取組

- **みえ介護生産性向上支援センターの取組**

- ・令和7年度事業計画書のとおり

- **生産性向上に係る個別セミナーの開催**

- ・訪問介護事業所向けのセミナーや生産性向上推進体制加算の取得希望施設向けのセミナー等の個別テーマを設定した取組を実施することにより、センターの認知度を向上させ、支援件数の増加を目指す。

## 1 K P I の定義

伴走支援の実施（3事業所以上/年）について、生産性向上推進体制加算（I）算定開始時に求める生産性向上の成果（総勤務時間や超過勤務時間の縮減、年次有給休暇の取得の拡大等）と同等の効果を創出

## 2 K P I の設定

**専門家による伴走支援モデル事業の実施により、加算算定開始時に求める生産性向上の成果と同等の成果の効果を創出した事業所：3事業所以上/年**

## 3 K P I の達成のための取組

- **専門家による伴走支援モデル事業の実施**
  - ・モデル事業における生産性向上の取組を通じて、総勤務時間や超過勤務時間の縮減、年次有給休暇の取得の拡大等を図る。
- **生産性向上推進体制加算取得セミナー（勉強会）の開催**
  - ・生産性向上推進体制加算の取得を検討する介護施設等を対象として、加算の制度説明や実際に取得した取組を紹介するセミナーを開催する。

## 4 K P I の達成状況

- ・ **令和7年度は、伴走支援モデル事業を8事業所に対して実施**
- ・ **伴走支援をふまえた成果及び指標の検証については、現在確認中であり、次回会議で報告予定**